

3. 入コース試験

3.1. 国内入コース試験

総合理工学府および工学府(地球資源システム工学専攻)からの進学者は4月の大学院入学から10月の入コースまでの半年間をプレプログラム期間とし、本プログラムの情報収集などに充てることができる。

入コースを希望する学生はまず7月上旬の規定日までに「入コース申込書」を提出し、その後「入コース願書」に「推薦書(2通)」「学部の成績証明書」及び「英語能力証明書(TOEIC認定証等)」を添えて、7月中旬の締切日までに提出する。実際の試験(8月上旬)においては(1)専門科目の筆答試験、(2)小論文、及び(3)面接を全て英語で実施し、これらの結果と(4)学部時代の成績、(5)英語試験のスコアを総合的に判断して合否を判定する。

なお、この入試の結果をもってもなお定員(学内入コース10名)に余裕がある場合には、2次募集を実施することがある。

(1) 平成25年度入コース生(2期生)入コース試験

本プログラムの採択が平成24年の秋であったため、同年入コースの1期生の募集、選考をやや無理なスケジュールで実施したという経緯がある。よって本入試が通常の募集・選考のプロセスを踏んだ国内入試の最初の例となった。なお1次募集の結果、定員を満たさなかったため2次募集を実施した。スケジュールを表3-1に、結果を表3-2示す。

表3-1. 平成25年度入コース(2期生)の国内入試スケジュール

内容	実施日
入コース説明会	7月3日
入コース申込書 締切	7月8日
入コース願書 締切	7月16日
入コース試験	8月6日
査定会議	8月20日
合否通知	8月21日
入コース	10月1日
入コース(2次募集)説明会	12月7日
入コース(2次募集)願書 締切	12月27日
入コース(2次募集)試験	1月14日
査定会議	1月14日
合否通知	1月20日
入コース	2月1日

表3-2. 平成25年度入コース(2期生)の国内入試結果

専攻	応募者	受験者	合格者
総合理工学府・物質理工学専攻	1 (1)	1 (1)	1 (1)
総合理工学府・量子プロセス理工学専攻	5	5	5
総合理工学府・環境エネルギー工学専攻	0	0	0
工学府・地球資源システム工学専攻	1	1	1
計	7 (1)	7 (1)	7 (1)

()内はそのうちの2次募集の結果

(2) 平成 26 年度入コース生(3 期生)入試

前年の入試で応募者が期待より少なかったことから、本年度は以下の点を改善してコース生の募集に臨んだ。

1. 学生への情報発信が不足していた可能性があるため、4 月の入学生への全体オリエンテーションの際に、合わせて本プログラムの説明も実施した。
2. 入コースを希望する学生は 10 月までのプレプログラム期間からリサーチアシスタント生として採用し、講義やイベントへ参加してもらうことで、本プログラムの内容をより深く理解してもらうと同時に、本人の適性のチェックと入コースへの準備が具体的にできるようにした。
3. ウェブサイトを大幅に改善し「通常の大学院課程との比較」「経済的支援」「コース生の 1 日」などを発信することでコース生生活の「見える化」をはかり、入コースへの判断材料を提供した。

スケジュールを表 3-3 に、結果を表 3-4 示す。なお平成 26 年度は 2 次募集は実施しなかった。

表 3-3. 平成 26 年度入コース(3 期生)の国内入試スケジュール

内容	実施日
入コース説明会	4 月 8 日(工学府) 4 月 9 日(総合理工学府)
リサーチアシスタント受付締切	4 月 30 日(工学府) 4 月 23 日(総合理工学府)
入コース説明会	7 月 2 日
入コース願書 締切	7 月 15 日
入コース試験	8 月 5 日
査定会議	8 月 6 日(学府) 8 月 19 日(全体)
合否通知	8 月 20 日
入コース	10 月 1 日

表 3-4. 平成 26 年度入コース(3 期生)の国内入試結果

専攻	応募者	受験者	合格者
総合理工学府・物質理工学専攻	1	1	1
総合理工学府・量子プロセス理工学専攻	8	8	6
総合理工学府・環境エネルギー工学専攻	0	0	0
工学府・地球資源システム工学専攻	1	1	1
計	10	10	8

3.2. 国際入コース試験

10月入学、入コースを希望する留学生は、規定の期日までに「入コース願書」に「推薦書(2名の教員)」「学部の成績証明書」「英語能力証明書(TOEIC認定証等)」「パスポートのコピー」などを提出するが、学内進学者と異なり受験時点では未だ受け入れ教員が決まっていないため「九州大学教員の受け入れ確認書」が必須となる。これは平成25年度入コース(2期生)については、各自で九州大学教員に受け入れ依頼をしていたが、平成26年度入コース(3期生)の入試以降では、受験生の希望に従いプログラム側で受け入れ教員を探す「マッチングサービス」を提供した。

(1) 平成25年度入コース生(2期生)入試

前年度、プログラムが採用された直後から、プログラム関係教員が関係のあるアジアの各大学でプログラムの紹介をおこない、またリクルートへの協力を依頼した。その結果、平成25年度入コース生(2期生)の募集については、定員(留学生10名)を大幅に上回る応募があった。そのため応募書類の(1)学部生成績(GPA)及び(2)英語試験のスコアなどを元に、まず1次スクリーニングを実施した。このスクリーニングを通過した候補者について、メンター予定者及びプログラム関係教員で現地に赴き、2次スクリーニングとして(3)専門科目の筆答試験、(4)小論文、及び(5)面接を実施した。最終的にはこれらを総合的に判断し、可否を決定した。スケジュールを表3-5に、結果を表3-6示す。なお、大学院への入学手続き等の関係から、総合理工学府と工学府は実施日程を異にしている。

表3-5. 平成25年度入コース(2期生)の国際入試スケジュール

内容	実施日 総合理工学府	実施日 工学府
願書 締切	4月30日	4月9日
1次スクリーニング結果通知	5月15日	4月19日
2次スクリーニング(現地試験)	6月3日~21日	5月7日~11日
可否通知	7月3日	5月23日
入コース	10月1日	10月1日

表3-6. 平成25年度入コース(2期生)の国際入試結果

専攻	応募者	1次通過者	入学者
総合理工学府・物質理工学専攻	19	10	2
総合理工学府・量子プロセス理工学専攻			4
総合理工学府・環境エネルギー工学専攻			2
工学府・地球資源システム工学専攻	5	5	1
計	24	15	9

(2) 平成26年度入コース生(3期生)入試

プログラムが採用の時期の関係から、前回の2期生については4月に願書を締め切り、可否判定を5月下旬~7月上旬で実施した。しかしながら、留学生にとってはこのコース入試が事実上の大学院入試であり、通常の修士課程に入学する日本人学生(8月可否決定→翌4月入学)を勘案すると、入試実施時期が遅いと言える。さらに優秀な留学生を広く募集するために、以下のような改善をおこなった。

1. 募集及び試験の実施時期を早め、4月上旬までに合否決定ができるようにスケジュールを組んだ。
2. プログラム関係教員と特別な関係がない学生にも応募するチャンスを与えるため、受験生の希望に従いプログラム側で受け入れ教員を探す「マッチングサービス」を提供した
3. ウェブサイトを大幅に刷新し、留学生にとっての特に懸念材料となる経済的な問題についてプログラムからの経済的支援と生活費、税金などの出費についても情報を提供した。また留学そのものへの不安を解消するため、日本、福岡、九州大学について、写真などを使ってわかりやすく紹介したページなども掲載した。
4. ウェブサイト上から直接応募書類を提出できるシステムを導入し、応募者の負担を軽減する対策をした。
5. 海外の学生募集の有料ウェブサイトに出すことで、広く募集情報を告知するように努めた。

これらの結果、前年度を大幅に上回る応募があった。選考は前年度とほぼ同じ手順でおこなったが、総合理工学府の1次スクリーニングでは応募者をS, A, B, C, F(不合格)にランク付けし、S評価の応募者については筆答試験、小論文を免除してインターネットでの面接のみで2次スクリーニングとした。スケジュールを表3-7に、結果を表3-8示す。

表3-7. 平成26年度入コース(3期生)の国際入試スケジュール

内容	実施日 総合理工学府	実施日 工学府
願書 締切	平成26年2月10日	平成25年11月4日事前連絡
1次スクリーニング	平成26年2月26日	
2次スクリーニング(現地試験)	平成26年3月17日～ 平成26年3月31日	平成25年12月12日～ 平成26年2月2日 平成26年4月8日追加試験
合否決定	平成26年4月11日	平成26年4月11日
入コース	平成26年10月1日	平成26年10月1日

表3-8. 平成26年度入コース(3期生)の国際入試結果

専攻	応募者	1次通過者	入学者
総合理工学府・物質理工学専攻	35	22	2
総合理工学府・量子プロセス理工学専攻			2
総合理工学府・環境エネルギー工学専攻			2
工学府・地球資源システム工学専攻	12	9	3
計	47	31	9

(3) 平成27年度入コース生(4期生)入試

平成27年入コース生(4期生)の国際入試については、これまで総合理工学府と工学府のスケジュールが異なっていたものを一元化して実施した。また平成26年度末までに最終的な合否ができるように実施時期をさらに早めた。プログラム時限の関係で、現時点では4期留学生は3.5年(一部については4.5年)の奨励金しか保証されておらず、この旨をウェブ

サイト等で明確にした上で募集をおこなった。そのため当初は応募数に不安があったが、結果としては前回はさらに上回り、25カ国・地域から90名を超える応募があった。選考は前回と同様の手順で実施した。スケジュールを表3-9に、結果を表3-10示す。また応募者の国別の結果は表3-11のようになった。

表3-9. 平成27年度入コース(4期生)の国際入試スケジュール

内容	実施日
願書 締切	平成26年11月28日
1次スクリーニング	平成27年1月5日
現地試験	平成27年2月14日～ 平成27年3月18日
2次スクリーニング 合否決定	平成27年3月30日
入コース	平成27年10月1日(予定)

表3-10. 平成27年度入コース(4期生)の国際入試結果

専攻	応募者	1次通過者	合格者
総合理工学府・物質理工学専攻		5	3
総合理工学府・量子プロセス理工学専攻	-	6	5
総合理工学府・環境エネルギー工学専攻		2	2
総合理工学府・その他		3	1
工学府・地球資源システム工学専攻	-	2	1
計	91	18	12

表3-11. 平成27年度入コース(4期生)の国際入試の国別の結果

	応募者	1次通過者	現地試験対象者	合格者
バングラデシュ	15	5	5	3
中国	2	1	1	1
韓国	1	1	1	1
エジプト	9	1		
スペイン	1			
エチオピア	1			
イギリス	3	1	1	1
インドネシア	3	1	1	1
インド	4			
モンゴル	2			
マレーシア	8			
ナイジェリア	3	1	1	
ネパール	1	1	1	1
スーダン	1			
パキスタン	15			
フィリピン	2	1		
タイ	2	1	1	1
パレスチナ	5			
シエラレオネ	1			
シリア	4			

イラク	1			
イラン	2	1	1	1
台湾	1	1	1	1
ルワンダ	2			
ベトナム	2	2	1	1
計	91	18	15	12

3.3. 学内の他プログラムからの編入

本教育プログラムは5年一貫の博士学位プログラムであるため、原則として途中から本プログラムに参加することはできない。しかし例外的に総合理工学府ならびに工学府(地球資源システム工学専攻)の修士課程学生のうち、本プログラムが定めた要件(付録21)を満たす者には博士研究開始資格認定審査(Qualifying Examination, QE)の受験を認め、これに合格と判定された場合には、本プログラムにおける一貫制博士3年(博士後期課程1年に相当)開始時の入コースを認めることにしている。

平成26年度に入って本プログラムへの編入を希望する学生が現れ、最終的にこれを認めた。認定に至るまでの経緯は以下の通りである。エネルギー環境理工学国際コース(総合理工学府が上海交通大学、釜山大学校と共に実施している修士課程協働教育プログラム)の学生2名が、コース修了後、平成27年4月から本プログラムへ編入することを希望して来た。そこで本プログラムでは、先ずこの2名がQEの受験要件を満たしていることを学務委員会(平成27年1月)において確認した。ただし、要件の一つである「社会・環境・経済システム学科目」あるいはこれに相当する科目の単位修得に関しては、修得した科目の読み替えが必ずしも十分に満足のものではないと判断されたため、QEに合格した場合には編入後に上記科目の履修を強く勧めるという条件付きでQE受験を認めることとした。その後、本プログラムの第2期生に対するQE(平成27年2月)と同じ日に「プレQE」と称する試験を実施し、面接を含む残りの試験は博士課程入学試験合格が確定した後に行った。「プレ」を付けた理由は「編入希望者に対するQEは正式には修士課程修了後の身分が確定してからなされるべきものである」という大学本部の指導に従ったためである。最後にQE査定会議(2月24日)において両名とも合格という判定がなされたので、平成27年4月から本プログラムへの編入を認めることになった。